

○教育民生常任委員長（福本耕太君）

おはようございます。

閉会中の令和 5 年 9 月 6 日に教育民生常任委員会を開催いたしましたので、その内容について報告をいたします。

教育総務課から、大鐸こども園建設工事实施設計業務について説明がありました。リフォームおよび増築、あるいは全面建て替えにするか検討してきましたが、コスト面、工法、地元理解等を考慮して、全面建て替えを選択したいと考えている。今年度、当初予算では、実施設計委託料 780 万 9 千円を計上しているが、全面建て替えによる設計面積が 175 m²に増加すること、周辺の水路、道路、隣地との境界を確定する必要があるため、来年度実施予定であった測量業務を先行して実施する必要があること、地盤の状況確認のためにボーリング調査を行い、基礎工事の設計を行うことが必要で、500 万円不足することから、9 月議会での予算措置を考えているとの報告がありました。

委員から、「子どもの遊ぶところが確保できるのか」と質問があり、執行部からは、「遊具は、建物の南側に配置しており、今までどおり使える。運動会等については、地元の理解を得ながらゲートボール場を利用させてもらうことも考えている」と、答弁がありました。

委員から、「国の補助は」との質問があり、執行部から「辺地債を活用し、8 割の交付税バックがある。補助金等はなく、辺地債を活用してできるかぎり町に有利な起債を使う予定にしている」と、答弁がありました。

委員から、「解体費用は入っているのか」と、質問があり、執行部から「解体費は、次年度に設計予定で、建設中に設計する予定。参考までに四海こども園の解体費用が m²あたり 3 万 9 千円かかるため、トータル 682 万 5 千円の増の見込みになると答弁がありました。

続いて、健康福祉課からは 3 点説明がありました。

1 点目、非課税世帯に 3 万円または 1 万 5 千円を給付する「価格高騰重点支援給付金事業」について、対象世帯数は、まだ変動する可能性はあるが、9 月 4 日現在 1907 世帯で、そのうち予定も含め、1799 世帯に給付しており、辞退は 2 世帯、申請率は 94.4%。また、被扶養者のみ世帯は対象世帯 210 世帯に対し、201 世帯に給付しており、申請率は 95.71%。なお、家計急変の申請は 7 世帯あり、7 世帯とも給付決定しているとのことでした。

次に、子ども食堂とフードバンクを実施している団体に 1 万円（後ほど、訂正あり）を補助する「価格高騰対策補助事業」は、該当する 2 団体から申請を受理し、既に給付手続きを完了したとのことでした。

2 点目、新型コロナウイルスワクチンの接種について、今年度は、国庫補助を財源とし、国の方針に沿って、初回接種に加え、65 歳以上の高齢者のほか、5 歳

から 64 歳までの基礎疾患を有する方、そのほか重症者リスクが高いと医師が認める方および医療従事者・高齢者施設等の従事者の方に対して接種を実施してきたとのことです。9 月 19 日をもって春開始接種を終了し、9 月 20 日から来年 3 月 31 日まで重症者を減らすことを目的とした接種を引き続き実施する。現在も重症者が一定程度生じており、重症化リスクが高くない者であっても、接種機会を確保することが望ましいとされていることから、初回接種を完了した追加接種可能な全ての者を対象に接種を実施するとのことです。

秋開始接種の接種期間については、小豆郡内の医療機関において、9 月 25 日から来年 3 月 31 日までの予定としており、接種実施体制については、春開始接種と同様の接種体制としているとのことでした。

接種方法については、小豆郡医師会の協力を得て、医療機関での個別接種を実施する。また、豊島地区については豊島健康センターにて個別接種を行い、高齢者施設等については、嘱託医による接種を実施する。

初回接種については、郡内の医療機関においては、小豆島中央病院のみとなっており、3 月 31 日まで実施する。追加接種については、5 月 20 日から開始しました春接種が 9 月 19 日をもって終了となるので、その後、9 月 25 日から 3 月 31 日まで、最終接種日から 3 カ月を経過した者に対して秋開始接種を実施すると説明がありました。

委員から、「新しい株が出ていると聞いているが、県下ではどれくらいかわかるか」と質問があり、執行部から「8 月のゲノム解析によると香川県でも EG.5 が出てきているという情報があるが、割合までは示されていない」と、答弁がありました。

3 点目、小豆圏域周産期医療については、7 月 31 日の全員協議会後の経過について報告がありました。

8 月 10 日に香川大学医学部の金西教授、香川県医務国保課、子ども家庭課、小豆島両町、小豆島中央病院が集まって、第 1 回小豆圏域周産期医療検討会を開き、3 回程度のスケジュールで、年内に取りまとめることとした。また、検討課題として、「小豆圏域の周産期医療の現状と課題について」検討委員内で共通認識を確認し、連携病院については、妊婦の交通の関係を考慮して、香川大学病院だけでなく香川県立中央病院も賛同いただくよう協力依頼をすることになった。また、この制度が軌道にのった状態で、高松日赤にも協力を依頼することになったと報告がありました。

8 月 30 日の第 2 回検討会では、香川県立中央病院の産婦人科の医局長が参加し、小豆島中央病院のセミオープンにおけるマニュアルの確認を行った。また、連携における医療機器の整備について、各病院からの意見を聞き調整し、機器導入における補助についても県から助言をもらった。また、利用者への補助につい

ては、町としての考え方を協議し、詳細について、県を含めもう一度検討することになった。

以上が、第2回の検討会の内容で、第3回を10月中の予定で検討しており、そこで医療機器の整備と利用者の補助について協議し、基本方針を決定したいと報告がありました。

今後の予定として、基本方針の決定を受けて、利用者補助要綱の整備をした後、その要綱に対する予算の検討を行い、今年度12月に補正予算を考えている。

利用者周知は、令和6年1月からの新規妊婦受診者に対し、小豆島中央病院からこの制度について説明を行い、役場でも母子手帳交付時の面接で、補助要綱などの説明を行う。また、病院ならびに両町において、広報誌やホームページにてこの制度を掲載する予定とのことです。

本来、セミオープン制度については、小豆島中央病院としては令和6年4月以降に実施することになっていた。また、当初、低リスクの妊婦は、経産婦を対象にしていたが、香川大学や小豆島中央病院との協議の結果、対象者および開始時期について緩和していただけることになったと報告がありました。

委員から、「産みづらいという先行イメージになるが、今やっていることの周知徹底はどのように考えているのか」と、質問があり、執行部からは「安全性を考えたらメリットもあることや、補助制度などにより、影響を最小限に留めることをわかっていただけるような広報に努めていく」と答弁がありました。

委員から、「里帰り出産100%無理なのか」との質問に、執行部からは「当初、病院議会で経産婦のみの低リスクの人が、小豆島中央病院で産めるという話をしたと思うが、経産婦だろうが初産だろうが里帰りだろうが低リスクの方は小豆島中央病院の方でお産ができるというかたちに変わっている。そのあたりは緩和というか変更されたところである」と、答弁がありました。

住民環境課からは、二酸化炭素排出抑制対策事業について説明がありました。

現在、土庄町では、2030年度における二酸化炭素排出量の目標を、2013年度を100として74%と定めている。また、今後は国、県と同様に2050年度カーボンニュートラルの実現を目指していく必要があるとのことから、町では、昨年9月に、町内の電気工事業者に再生可能エネルギー導入に向けた提案募集を実施したところ、1社から提案書を受理した。その1社と共同で公共施設等への太陽光発電整備等の導入調査について、一般社団法人地域循環共生社会連携協会に事業申請し、7月にその交付決定通知を受け、現在は町の公共30施設での設置可否の調査を開始している。

今年度1183万500円の事業費のうち、800万円が補助金で残りは共同申請者の負担であります。今後の予定として、設計図書等から計算した設置可能施設での配置計画、現状分析、調査報告等を行い、年度末までに事業実績報告書を提出

する予定としている。その結果を基に、その各施設に太陽光発電設備を設置するか協議し、決定すれば来年度に設置工事を行っていく予定だということです。また、その工事費用も共同申請者の負担で行うので、町としては町有地の空いているスペースを有効活用して、太陽光発電設備の設置を了承し、その電力を購入することで二酸化炭素排出抑制につなげるイメージであると報告がありました。

委員から、「実際の実施はいつからはじまるのか」「既存の電気料より安いと言ったが」との質問があり、執行部から「今年度は実証実験、調査がメインで、予定は決まっていない」「料金も実証実験の結果待ち」との答弁がありました。

委員から、「太陽光発電設備の耐用年数はどのくらいか」との質問に、「だいたい20年ぐらい」と、答弁がありました。

以上で、教育民生常任委員会の報告を終わります。

○教育民生常任委員長（福本耕太君）

すいません。失礼いたしました。訂正を行います。

健康福祉課の方で報告をいたしました、子ども食堂とフードバンクの実施団体、実施している団体への補助金について間違えて1万円という報告をしてしまいましたけれども、正しくは10万円が正しい金額になります。以上で、報告を終わります。